

一般社団法人 日本専門医機構  
第5期第5回理事会 議事録

1. 開催日時 2022年10月21日（金） 16時00分～18時09分
1. 開催場所 日本専門医機構会議室（会場およびWEB会議）
1. 現在理事数 25名
- 出席理事数 21名
- 理事長 渡辺 毅
- 副理事長 角田 徹（WEB） 齊藤 光江（WEB）
- 理事 浅井 文和（WEB） 麻倉 未稀（WEB） 飯野奈津子（WEB）
- 井上健一郎 江口 英利（WEB） 岡田英理子（WEB）
- 金井 隆典（WEB） 釜薙 敏（WEB） 木村 壯介（WEB）
- 今野 弘之 鈴木 幸雄（WEB） 滝田 順子（WEB）
- 富山 憲幸（WEB） 名越 澄子（WEB） 福原 浩（WEB）
- 宮崎 俊一 矢富 裕 渡辺 雅彦（WEB）
- ※（WEB）は「WEB会議システム」利用による（「WEB会議運用規則」第2条）
1. 現在監事数 3名
- 出席監事数 1名
- 茂松 茂人（WEB）
1. 事務局 事務局長 堀部 真人 他
- 欠席理事数 4名
- 理事 北村 聖 古川 博之 森 隆夫 松本 陽子
- 欠席監事数 2名
- 監事 相澤 孝夫 兼松 隆之
1. オブザーバー 新井 朋博（日本医師会生涯教育課）
- 寺村 一成（厚生労働省医政局医事課）
- 遠藤 久夫（学習院大学経済学部長）

（全て五十音順／敬称略）

議事次第

I. 第4回理事会（9月16日開催）議事録の確認

II. 協議事項

1. データベース検討委員会

（1）日本専門医機構システムの名称（案）

2. 専門研修プログラム委員会

（1）基本領域整備基準変更について

（プログラム整備基準 ①産婦人科／カリキュラム整備基準 ①麻酔科②産婦人科③救急科）

（2）サブスペシャリティ領域整備基準変更について（内分泌代謝・糖尿病内科／血液）

（3）2023年度専攻医募集スケジュールについて

3. 研究医養成に関するワーキンググループ

（1）臨床研究医コースの2次募集について

4. 専門医認定・更新委員会

（1）機構専門医新規認定二次審査について（内科・リハビリテーション科）

（2）専門医更新基準改訂案（①眼科②リハビリテーション科③脳神経外科）

5. サブスペシャリティ領域検討委員会

（1）2023年度サブスペシャリティ領域専門研修に関して（案）

（2）機構認定サブスペシャリティ領域懇談会の新設（案）について

（3）2022年度機構認定サブスペシャリティ領域募集スケジュール（予定）について

6. 第4期からの申し送り事項

7. その他

（1）概報令和4年（2022年）度版の発行に関する進捗報告

III. 報告事項

(3) 2022年度機構認定サブスペシャリティ領域募集スケジュール(予定)について

6. 第4期からの申し送り事項

7. その他

(1) 概報令和4年(2022年)度版の発行に関する進捗報告

### Ⅲ. 報告事項

1. 各種委員会報告

(1) データベース検討委員会

(2) システム要件検討ワーキンググループ

(3) 倫理委員会

(4) 専門研修プログラム委員会

(5) 専門医認定・更新委員会

(6) サブスペシャリティ領域検討委員会

(7) 総合診療専門医検討委員会

2. その他

(1) 講演報告(10月7日 「第75回日本胸部外科学会定期学術集会」)

(2) 次回(10月24日)定例記者会見について

(3) その他

### Ⅳ. その他

16時00分、定刻に至り、理事長より挨拶の後、出席理事数の確認があり本理事会の成立を宣言し議事を開始した。

## I. 第3回理事会（9月16日開催）議事録の確認

渡辺理事長より、第4回理事会（9月16日開催）の議事録の確認が行われ、問題がある場合は申し出て頂くこととした。

## II. 協議事項

### 1. データベース検討委員会

#### (1) 日本専門医機構システムの名称（案）

富山担当理事より、「専門研修プログラムシステム」が今年度から専攻医だけでなく専門医も対象とすることを踏まえ、正式名称として「JMSB Online System+」を採用することが提案され、承認された。

また、専攻医など若い世代の当機構および当機構システムに関する理解を深めることを企図してシステムの愛称を公募することが提案された。これに対して、システムの全体像がまだ明確ではないことや、一部の領域において当機構および当機構システムに対する理解を促すことが優先されることを理由に時期尚早であるという意見が出され、愛称の公募・決定については保留することとなった。

### 2. 専門研修プログラム委員会

#### (1) 基本領域整備基準変更について

（プログラム整備基準 ①産婦人科／カリキュラム整備基準 ①麻酔科②産婦人科③救急科）

宮崎担当理事より、産婦人科領域のプログラム整備基準の変更（出産・育児・介護に伴う休止に関する文言の変更と追加）について諮られ、承認された。

また、麻酔科、産婦人科、救急科領域のカリキュラム整備基準の変更（プログラム整備基準との整合性をとるための修正、誤読を防ぎ研修の質を担保するための修正など）について諮られ、承認された。

なお、今回の変更で、麻酔科のプログラム整備基準に「麻酔科学会の会員であること」と明記されていることについて、ある領域の専門医であることと当該領域の学会員であることは別物であるという当機構設立時からの理念とは必ずしも相容れるものではないが、既に他の領域でも実質的に学会員であることを求める整備基準の規定が存在することに鑑み、承認することとなった。ただし、学会員であることを求める整備基準の規定が存在する領域において、患者の難病認定申請の際に必須となる専門医資格もあり、専門医が学会員資格を喪失した場合に専門医としての業務継続が可能か否かについて不明確であることから、今後、改めて総務委員会あるいは将来構想委員会にて議論を進めていくこととする。

#### (2) サブスペシャルティ領域整備基準変更について（内分泌代謝・糖尿病内科／血液）

宮崎担当理事より、内分泌代謝・糖尿病内科および血液のサブスペシャリティ領域整備基準の変更（文意を明確にする修正、文書作成時のミス修正など）について諮られ、承認された。

### (3) 2023年度専攻医募集スケジュールについて

宮崎担当理事より、医道審議会医師分科会医師専門研修部会の開催が例年より1ヶ月遅れることにより、2023年度の専攻医募集スケジュールも例年より1ヶ月遅れることが報告され、承認された。

## 3. 研究医養成に関するワーキンググループ

### (1) 臨床研究医コースの2次募集について

金井理事（委員長）より、2023年4月開始予定専門研修の臨床研究医コースについて、定員40名に対して応募者は12名に留まったため、残りの定員28名に対して二次募集を行うことが提案され、承認された。

なお、理事より、二次募集のスケジュール（案）では募集期間を10月24日～11月10日としていたが、通常プログラムの専攻医募集スケジュールが1ヶ月遅れることを受けて締切延長が可能ではないかという意見が出され、事務局が対応可能な範囲で延長することとなった。

## 4. 専門医認定・更新委員会

### (1) 機構専門医新規認定二次審査について（内科・リハビリテーション科）

渡辺理事長より、機構の定めた認定基準に基づき学会の一次審査に合格した内科（2名）、リハビリテーション科（52名）の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として新規認定したことが報告され、承認された。内科の2名はCOVID-19措置対象で修了要件を満たした者の追加申請である。

### (2) 専門医更新基準改訂案（①眼科②リハビリテーション科③脳神経外科）

渡辺理事長より、眼科、リハビリテーション科、脳神経外科の専門医更新基準改定案について、諮られた。眼科、脳神経外科において、連続して3回以上の資格更新を経た専門医は4回目の資格更新から診療実績の証明等の免除が可能となるという旨の改定については、手術実績に代わって専門医の質を担保する条件の明記を求めることとし、それ以外の改定は承認された。

外科系において複数回の更新を経た専門医に手術実績の証明を求めるべきか否かについては、外科系の理事を中心に複数の意見が出された。そもそも内科と外科系は異なるという意見、一般国民や紹介先を検討する他科の医師は専門医に手術に関する高い技術と積極性を期待しておりそのように認識されるという見解がある一方で、領域によっては診断や内科的治療を外科医が手がけることもあり経験豊かな外科医ほど手術症例数だけでは測れない能力を有することがあるという意見、最前線で活躍するだけでなく専門医を育成する立場の資格を設けることで整理すべきという意見などが出された。

また、外科系における専門医に期待される能力と経験について、領域毎に丁寧に整理し、国民からみて解りやすく説明する必要があるという意見もあった。

これらの点については、専門医制度の根幹に関わる課題であるため、専門医認定・更新委員会において議論を継続することとする。

## 5. サブスペシャルティ領域検討委員会

### (1) 2023年度サブスペシャルティ領域専門研修に関して(案)

滝田理事（委員長）より、サブスペシャルティ領域専門研修に関して誤解や混乱が生じている現状を受けて委員会において論点の整理を行い、サブスペシャルティ領域連絡協議会および、サブスペシャルティ領域専門医検討委員会に対する説明資料（案）を作成したことが報告され、これをもって各領域に対する説明を進めることが承認された。

この文書では、研修施設の申請と審査および専攻医の申請において機構が果たす役割を整理し、次年度開始の研修については、個々の研修施設の審査は行わず各施設からの認定料徴収を無しとすること、研修プログラム・カリキュラムについては、現在の申請状況により申請の要否および範囲を決めたこと、専攻医の申請および登録料徴収は無しとすること等、今年度に限って行う運用について説明している。理事からは、サブスペシャルティ領域検討委員会で行われた論点整理に対して、この度の混乱を收拾させる効果が期待できると歓迎する意見が出された。

また、今年度の申請において機構システムに登録を求める各研修施設の基本情報の内容について各領域に早めに伝達する必要があることから、サブスペシャルティ領域検討委員会に一任することが提案され、承認された。

なお、事務局より、サブスペシャルティ領域専門医個人の専門医認定料については徴収することが決まっている旨補足説明がなされた。

### (2) 機構認定サブスペシャルティ領域懇談会の新設(案)について

滝田理事（委員長）より、当機構と各領域学会との情報共有ならびに意見交換を綿密にするため、機構認定サブスペシャルティ領域懇談会を設置することが提案され、承認された（本懇談会の設置については、前項の説明資料にも明記されている）。

構成メンバーは、当機構（サブスペシャルティ領域検討委員会、専門研修プログラム委員会、事務局）、機構認定サブスペシャルティ領域専門医検討委員会委員、機構認定サブスペシャルティ専門医に関わる各領域・基本領域学会の事務局とし、年に3,4回の定期開催に加えて必要に応じて適宜開催することとする。

理事からは、混乱を解消するためにはサブスペシャルティ領域として認定される前の意見交換の場も必要ではないかとの意見が出された。これに対して滝田理事（委員長）および他の理事より、これまでは連絡協議会からの問合せに書面で回答することが多かったが、今後は申請数が少なくなると想定されるため個別に意見交換の場を設けるなど臨機応変に対応していくという補足説明がなされた。

### (3) 2022年度機構認定サブスペシャルティ領域募集スケジュール(予定)について

滝田理事（委員長）より、2022年度の機構認定サブスペシャリティ領域の審査・認定の日程案が諮られ、承認された。委員会では、今年度の募集は保留すべきという意見もあったが、すでに申請準備を進めている領域も存在するため前年と同様の日程での募集を決定したこと、募集開始の際には丁寧な説明を行う必要があることが説明された。

渡辺理事長からは、応募を予定している領域学会との意見交換の場を設けて欲しいという要望が出された。また、他の理事より、話し合いは公開して欲しいとの要望も出された。

なお、滝田理事（委員長）より、学会認定機構承認サブスペシャリティ領域について15領域から申請が出ているが、審査基準がまだ定まっていないため、今後、委員会にて審議を進めていくこと、申請済みの15領域に対して審査に時間が必要であることを伝える予定であることが報告された。

## 6. 第4期からの申し送り事項

渡辺理事長より、第4期理事会からの申し送り事項である当機構の理事および監事に対する役員報酬に関して、外部評価委員会からは支払うべきと指摘されていること、当機構の運営状況として支払いが可能になったことを踏まえ、総務委員会および財務委員会において報酬額など詳細の検討に入ることが提案され、承認された。

## 7. その他

### (1) 概報令和4年（2022年）度版の発行に関する進捗報告

渡辺理事長および事務局より、令和4年度版の「日本専門医制度概報」を例年と同様のスケジュールで制作・発行することについて、構成案・概算費用とともに提案がなされ、発行すること自体は承認された。

理事からは、これまでの概報は紙媒体だったが電子媒体でよいのではないかという意見、関係団体だけでなく広く専攻医、研修医を対象とした情報発信が必要であるという意見が出された。なお、厚労省からは、ホームページに公開されていれば印刷物は無くてもよいとのことだった。

これらの意見をうけて、今年度の概報のレイアウトおよび項目の確認について、さらに来年度以降の制作体制については広報委員会にて審議を行うこととなった。

## Ⅲ. 報告事項

### 1. 各種委員会報告

#### (1) データベース検討委員会

富山担当理事より、基本領域専門医のシステム登録について、整形外科学会、脳外科学会など一部の学会で試行的にスタートし、アンケートなどで使用感や課題の収集を行っていることが報告された。

#### (2) システム要件検討ワーキンググループ

富山担当理事より、専門医制度を支える複数のシステムの統合を念頭に議論を行うシステム要件検討ワーキンググループが発足し、第1回の会議を開催したことが報告された。

### (3) 倫理委員会

事務局より、9月29日に開催した第1回倫理委員会にて新理事17名のCOI申告書が確認され、問題がなかったことが報告された。

### (4) 専門研修プログラム委員会

宮崎担当理事より、10月4日に三重大学麻酔科に対するサイトビジットを実施し、次回理事会には最終報告書を提出する予定であることが報告された。また、連携施設の追加、COVID-19感染拡大の影響による専攻医への柔軟な対応を2022年度も認めることが報告された。

### (5) 専門医認定・更新委員会

渡辺理事長より、総合診療専門医認定試験（CBT試験）において、台風14号の影響で九州地域の試験会場が閉鎖となり、追試験の実施も難しい状況を受け、総合診療専門医検討委員会で検討した対応策について承認したことが報告された。

### (6) サブスペシャルティ領域検討委員会

滝田理事（委員長）より、10月5日にサブスペシャルティ領域検討委員会を開催したことが報告された。

### (7) 総合診療専門医検討委員会

釜菴担当理事より、(5)でも述べられた通り、台風の影響を受けた受験者への対応について検討したことが報告された。

## 2. その他

### (1) 講演報告（10月7日「第75回日本胸部外科学会定期学術集会」）

渡辺理事長より、第75回日本胸部外科学会定期学術集会において新専門医制度に関する講演、質疑応答を行ったことが報告された。また、今後も特に外科系に対して説明の場を設けたいという意向が示された。

### (2) 次回（10月24日）定例記者会見について

浅井委員長より、次回の定例記者会見を10月24日に開催すること、次第内容は臨床研究医コースの二次募集についてとすることが報告された。

浅井理事、および渡辺理事長から、定例記者会見の場を活用して広く一般に広報したいことなど、アイデアがあれば提案してほしいという要望が出された。

### (3) その他

総務委員会委員長の矢富理事より、例年各委員会の委員長に次年度事業計画の作成を依頼しており、近く正式依頼を行う予定であること、前年度までの事業計画を参照したい場合は各委員会の事務局に問い合わせを希望することが報告された。

渡辺理事長より、機構ホームページに各委員会の委員構成が掲載されているが、さらにそれぞれの目的、目標、議決の要件などを掲載することを考えており、委員長に概要文の作成を依頼する予定であることが報告された。

#### IV. その他

特になし。

#### 本理事会での決定事項

- ・当機構の専門研修プログラムシステムの名称を「JMSB Online System+」とすることを承認した。
- ・産婦人科のプログラム整備基準、および、麻酔科・産婦人科・救急科のカリキュラム整備基準の変更を承認した。
- ・内分泌代謝・糖尿病内科および血液のサブスペシャリティ領域整備基準の変更を承認した。
- ・2023年度の専攻医募集スケジュールを承認した。
- ・臨床研究医コースの応募が定員に達しなかったため、残りの定員28名に対して二次募集を行うことを承認した。なお、事務局が対応可能な範囲で締切を延長することとなった。
- ・機構の定めた認定基準に基づき学会の一次審査に合格した内科（2名）、リハビリテーション科(52名)の専攻医について、委員会での二次審査の結果、機構認定専門医として新規認定したことを承認した。
- ・眼科・リハビリテーション科・脳神経外科の専門医更新基準の改定を手術実績に代わって専門医の質を担保する条件の明記を求めることを条件に、承認した。
- ・機構認定サブスペシャリティ領域の専門研修について連絡協議会など関係機関に対する説明資料を承認した。
- ・機構認定サブスペシャリティ領域懇談会を新設することを承認した。
- ・2022年度の機構認定サブスペシャリティ領域募集スケジュールを承認した。
- ・理事および監事に対する役員報酬について検討を開始することを承認した。

#### 今後の会議予定

- ・第5期第5回理事会 2022年11月18日（金）16時00分～18時00分

以上

以上をもって、本日予定された議事を終了し、18時9分に散会した。この議事内容を明確にするため、この議事録を作成し、定款第33条第2項の規定に従い、出席した代表理事および監事が記名押印する。

2022年10月21日

理 事 長 渡 辺 毅   
渡 辺 毅

副 理 事 長 角 田 徹   
角 田 徹

副 理 事 長 齊 藤 光 江   
齊 藤 光 江

監 事 茂 松 茂 人   
茂 松 茂 人